

# 未来バンク

すべての人がおカネに意志を持たせる社会にする

## ニュースレター 第9号 2023年 7月

### 【コンテンツ】

1. 田中優
2. 木村瑞穂の金融コラム
3. 未来バンク総会開催の報告
4. 特定担保融資実行のご報告：フェアトレードカンパニー株式会社

## 田中 優 理事長

Tanaka Yū

### なるべくおカネに 頼らない暮らしを



先日、「住宅ローン破綻の現場」というドキュメンタリーを見てしまった。

定年退職後の人々を襲っている悲劇だった。定年間近で「家賃を払い続けるよりもマシだろう」と考えて高くない家を買ひ、従来の家賃より高くないローンを設定したが、それでも返済ができなくなり、家を手放すしかなくなった人々のドキュメンタリーだった。家がなくなっても、どこかに家賃を払い続けながら住まなければならない。しかもマイホームを手放したというのに、売却してもローンを埋め切れず、新たな家賃負担と従来のローン

残額を払い続けなければならない。

ぼくは環境問題を気にしているが、もしそんな立場になっていたら、環境問題どころではなく今の生活費に何とかするために悩み続けるだろう。

つまり「環境問題」は、それ以前に気に掛ければならないことがあれば、それどころではなくなるのだ。日本では「SDGs(持続可能な開発目標)」が注目されているが、日本の現状には合っているのかもしれない。

ではぼく自身はどうかといえば、真面目に勤めながら生活してきたが、残念ながら社会の仕組みに従順に生きられるタイプではなかったから、年金収入だけでは決して豊かなレベルの生活はできない。ただしそうなることを見越して準備を心掛けてきたことがある。

「現金がなくても生活できるようにしておくこと」だ。そのおかげで贅沢はできないが、生活費に困るということはない。

東電の原発事故のせいで岡山に越してきたが、転居を機に毎月支払わなければならない定期支出を見直した。光熱水費や新聞・インターネット・携帯費用などだ。地方は予想外に借家・借間料が高い。安い家は家族全員が転出した民家で、残念ながら真新しい物件はない。これは日本全国で言えることだが、長持ちするような造りの家はほぼなく「化学物質を使っていないシックハウスでない家」を想定することも困難だ。要は安普請の中古住宅か、化学物質は使っていないが恐ろしく古びた古民家しかない。我が家も最初は古民家だったが、建て替えて天然住宅仕様の家を建てた。それしか方法がなかった感じた。

これで毎月の生活費の多くはかからなくなった。庭に使われていなかった井戸を復活させて水道管は止めた。暖房は灯油ストーブをやめて木質ペレットを利用した「ペレットストーブ」にした。そして念願だった「電力自給」を開始した。「慧通信技術工業」が信頼性の高い「パーソナルエナジー」という装置を完成させてくれたので、太陽光パネルと蓄電システム装置を古民家の土間に置いて実現した。その後「慧通信」の仕組みは、太陽光からの電気をさらに効率的に熱に変えて貯

蔵する「おひさまエコキュート」を実現した。我が家に太陽温水器がまだ設置されていなかったから、これを利用したかった。家を建てて、「パーソナルエナジー」のための「電気装置部屋」を作った。今でも我が家は電力会社の送電線につながっていない。

そして今や電気に困ることもなくなり、光熱水費などの固定的な支出も最低限にした。こうして毎月掛かる費用を最低限にしたのが「無理のない暮らし実現」の第一歩で、二歩目が有害化学物質を使わない「天然住宅仕様」の住宅を建てたことだ。おかげで何があっても、年金収入だけあれば生活には困らない生活を実現した。

こんな安心できる暮らしをもっと多くの人にしたいと思う。ぼく自身はカネが多少掛かっても実験のつもりで実現したが、今なら(近年の値上がりを除けば)ずっと実現しやすくなっている。そうしないと生活が困難になるほど電気代・ガス代が値上がりしている。しかも円が弱くなっているのだから下がる見通しもない状態だ。

安心して暮らすには、「収入」の向上を見込むべきではない。それよりも「支出」を下げることを考えた方が現実的だ。そのために未来バンクの融資を活用できたら社会に役立つ仕組みになると思う。今ではその選択肢も増えてきた。収入が得られなくても安心して生活できることをベースにしたい。それが今の未来バンクの願いだ。

# 木村 瑞穂

Kimura Mizuho

## 「ビットコインを巡る環境論争」

### ■大量の電力を消費するビットコイン

仮想通貨の代表選手としてよく名前を聞くビットコインは、大量の電力を消費することで批判されることも多い。その消費量は国家並みで、ある試算によればノルウェーの電力消費量よりも多いという。

そう聞くとビットコインは環境に悪いと感じてしまうのが普通の感覚だろう。

### ■ビットコイナーの反論

ビットコインを愛する人たちを「ビットコイナー」と呼ぶ。彼らも大量の電力を消費していることは否定していないが、彼らには彼らの反論がある。

(1)ビットコインは銀行システムの代替として登場したものだが、世界の銀行システムの消費電力よりは少ないはずだ。

(2)ビットコインの消費電力の多くは再生可能エネルギーや廃棄予定の余剰電力なので二酸化炭素の排出という観点からは影響は少ない。

### ■銀行システムの電力消費

現行の銀行システムの電力消費について考えてみよう。

現行の銀行システムは、銀行が帳簿を管理することによって成立している。世界中の銀行が預金の異動に関するデータを管理し、帳簿を書き換えることによって成り立っている。送金をするときには、送金元の預金残高を減らし、送金先の預金残高を増やす。世界中の

銀行が日々店舗やオンラインで送金を受け付け、帳簿の書き換えという作業を続けている。

日本だけでも、メガバンク、地銀、信金などの従業員とその家族を合わせれば数十万人になるだろう。世界全体では数百万人から1000万人くらいにはなるだろう。世界中の銀行のコンピューターや店舗、従業員の家庭で消費する電力はビットコインよりも多いはずだというのがビットコイナーの主張である。

確かにノルウェーの人口が500万人であることを考えるとありそうな話ではある。世界中の銀行システムがビットコインに変われば現在よりも電力消費は減るはずだという主張である。

### ■ビットコインの電力消費の仕組み

銀行システムが世界中で膨大な量の帳簿を日々書き換えているのに対して、ビットコインはブロックチェーンを日々更新し続けている。

銀行の帳簿は銀行ごとに作成し、外からアクセスできないところで管理することで安全性を担保している。それに対してブロックチェーンは、次の性質を持つ公開帳簿を作って共有する仕組みだ。

- ・誰でもいつでも残高が確認できる。
- ・通貨の真の所有者だけが送金できる。
- ・改ざんできない。

そんな帳簿があれば銀行なしでも送金ができる。そんな帳簿は不可能だと考えられていたが、サトシ・ナカモトと称する人物が最新の暗号理論を用いて作ってしまったのだ。

ブロックチェーンは約10分ごとに更新される。この10分間の取引に関する暗号クイズが生成され、そのクイズが解かれるとブロックチェーンが更新される。この作業を延々と続けることによってブロックチェーンが更新され続ける。ビットコインの取引はこのブロックチェーンを信頼することによって成立している。

暗号クイズを世界で最初に解いた人に報酬としてビットコインが与えられる。世界中の多くの人がコンピューターを利用してこの暗号クイズにチャレンジする。大量の電力を消費するのはそのためである。

暗号クイズにチャレンジする際の主たるコストは電気代である。クイズを解いてもらえる報酬よりも電気代の方が高くなればビジネスとして成立しない。そのため暗号クイズにチャレンジする人は、電気代の安い水力発電や発電所で余った安い電力を購入することでコンピューターを回している。

2番目の主張の根拠はここにある。

## ■最近の動き

ビットコインの反論は、「なるほど」とは思うものの説得力は感じない。実際ビットコインを批判する人たちは全く納得していない。

ブロックチェーンを更新する方法には主と

して2種類ある。一つはビットコインが採用するP o Wという方法で、もう一つは消費電力の少ないP o Sという方法だ。P o WとP o Sの技術的な説明は割愛するが、ビットコインナーはP o Wでないと帳簿としての真の確実性は担保できないと主張している。

しかし、ビットコインに次いで時価評価で第2位のイーサという仮想通貨が、2022年9月にP o WからP o Sに切り替えた。消費電力は500分の1になったといわれている。それを受けて複数の環境団体が「次はビットコインがP o Sに切り替える番だ」という意見広告を展開し始めた。

ビットコインナーの中でも古参の原理主義者はP o Wにこだわっているが、比較的最近参入してきたビットコインナーはP o Sを受け入れても良いと考える人が少なくない。

今後の成り行きはどうかかわからないが、批判に抗しきれずビットコインもP o Sに切り替えるのではないかと感じている。

ただ、個人的にはビットコインがP o Sに切り替わるかどうかということよりも、現行の銀行システムがいつまで続くのかということに興味がある。銀行システムも実は200年程度の歴史しかない。そろそろ別のシステムに切り替わってもよい頃ではないだろうか。

# 2021年度定期総会を開催しました

ご報告が遅くなり申し訳ございません。昨年開催した2021年度定期総会のご報告をいたします。

未来バンクは、2022年9月24日に定期総会を開催しました。

全出資口数 1億9,212万6,144口、出席口数（議長委任、その他委任、書面議決承認を含む）1億1,003万6,439口、全体の57.3%で過半数を超えたため総会は成立し、また全議案について承認されたことをご報告します。

## <決議事項>

- ・議案第一号 2021年度事業報告決算報告の承認
- ・議案第二号 2022年度事業計画の承認
- ・議案第三号 音信不通による組合員の脱退

郵便物が届かないなど、5年以上音信不通であった組合員3名を脱退扱いとする（当該請求権は銀行と同様に10年で時効が成立することとする）

- ・議案第四号 定款の変更

第3章 組合員 第12条（任意脱退）に下記4を新設  
4 第2項に規定する脱退申込書を組合に差し出した組合員は、理事会で脱退の承諾を得られた時点で議決権を喪失する。

- ・議案第五号 役員・理事長及び業務執行理事の選出  
理事長 田中 優  
業務執行理事 佐藤 隆哉  
理事 奥田 裕之  
理事 岡田 純  
理事 井上 あいみ  
理事 田中 悠輝  
監事 吉田 達

⇒ すべての議案は承認されました。

## <ご意見や質疑応答>

### ○議案第四号に対する不承認

意見）ズボラな私としては同類相哀れむで何年も放置したからと言って、権利が消失したらショックだと思うので、不承認です。

### ○「ユースチーム」について

質問）「事業計画、実行については、ユースチームが今後の事業方針の立案、実行の主運営を行う」のユースチームとは何ですか？

回答）次世代を担う役員として、佐藤隆哉、井上あいみ、田中悠輝の3名が担当しています。

### ○経営について

質問）人件費が支払われていないことが課題ではないかと思えます。多額の出資が活用されず眠っていることから、仕組み自体に見直しが必要ではないでしょうか。

回答）事業収益は貸付利息が主であり、低金利で融資事業を行っているため十分な人件費を支払うことは難しく、理事を含むスタッフは別の職業を持った社会活動として運営しています。今後の仕組みの見直しについては、ユースチームで検討を進めていきたいと考えています。

### ○太陽光パネルの融資について

質問）太陽光パネル設置の際に融資は可能ですか？

回答）環境により住宅設備購入は融資の対象です。

### ○その他のご意見

・2022年度事業計画での困窮者支援事業、期待しています。昨年から社協で困窮者支援の仕事をしていますが、あらゆる貸付や支援金を使い切ってもまだ自立が困難な人（かと言って生活保護まではいかない）を何人も見ているので。

・普段の活動のご様子がわかるような、一般会員も参加できるオンライン会議などがあると良いと思います。

# 特定担保融資実行のご報告

## People Tree／フェアトレードカンパニー株式会社

▷環境保護、途上国支援

▷<https://www.peopletree.co.jp/index.html>



<https://www.peopletree.co.jp/choco/index.html>

## People Treeの昨冬のチョコレートには、 未来バンクからの愛が入ってます！

昨年10月のメルマガで、「People Tree／フェアトレードカンパニー株式会社」からの融資希望を未来バンク独自の「特定担保提供融資」というスキームで実行する話をお知らせしました。

まず、この融資スキームをおさらいしておきます。融資希望があり面談でその事業が高く評価されるものであっても、希望の融資額が大きい場合や映画制作やイベントの開催など、リスクが高いために通常の融資では対応できないと判断した場合に、事業内容を組合

員の方々にお知らせし、賛同していただいた方々から出資額の中の何口かを当該融資の担保に提供していただき、その合計額の8割を融資するというものです。

万が一、事業が成功せず貸し倒れなどが生じた場合でも、未来バンク自体には損失が生じませんし、担保の提供をしていない組合員の出資金には影響がありません。また、担保が保証されているので低金利（1%）で融資することができるのです。

今回の融資は、ピープルツリーの人気商品であるオーガニックチョコレート仕入れ資金でした。予想を超える円安によりスイスフランでの支払い額が増加し、資金が不足してしまっただけです。これまでもピープルツリーにはこのスキームで2回融資しており、期日に返済されている実績がありました。また、提供された担保の1%相当のフェアトレードチョコレートをお礼にいただける特典もありました。

組合員の方々から次々と担保提供の書類が集まり、期間までに83名の方々から、合計29,871,920口の担保が提供されました。8割として23,871,920円です。希望融資額は2000万円でしたが、その後、担保提供額いっぱいの融資を希望されましたので、ピープルツリー

には10月末に23,800,000円の融資を実行することができました。

担保提供して下さったみなさま、ありがとうございました。

昨年の冬（ピープルツリーのチョコレートは11月から4月までの期間限定販売です。）もおいしいチョコレートが、たくさんの方々に幸せを運んだことでしょう。

※ フェアトレードカンパニー株式会社は、5月末日に返済を完了しています。

## 未来バンクとは

市民が組合員となって出資していただいた資金を、環境・市民事業・福祉の目的に関して、市民やNPO団体・法人が起こす社会的有用性の高い事業や取り組みに対し「融資」という方法で支援することを目的に設立された、市民による市民のための非営利バンクです。  
出資者のみなさまの夢のこもったお金を通じて、想いと人をつなぎ、住みよい未来を育てていきます。

### 融資実績

融資累計件数：**448**件 融資累計額：約**14億92**百万円（2023年6月時点）

**2022年7月～2023年6月** 融資件数：**6**件（他**7**件問合せあり）

融資の申し込みをご検討の方は、ウェブサイト内の「融資を受ける」をご覧ください。お問い合わせをお待ちしています。

<https://mirai-bank.org/loan/>



未来バンクの趣旨にご賛同いただける方は、出資をご検討ください。詳細はウェブサイト内の「出資・応援する」をご覧ください。

<https://mirai-bank.org/investment/>



未来バンクニュースレター 第9号

発行・編集：未来バンク事務局

発行日：2023年7月

 **未来バンク**  
MIRAI BANK

連絡先：〒132-0033

東京都江戸川区東小松川3-35-13-204

市民共同事務所「市民ファーム」内

営業：日曜日

HP：<https://mirai-bank.org/>

TEL/ FAX：03-3654-9188

MAIL：[info@mirai-bank.org](mailto:info@mirai-bank.org)

※営業日が限られております。

メールにてお問い合わせください

さようなら、坂本さん



これがぼくにとって一番好きな坂本さんの写真だ。ぼくの幼い娘が楽屋のホワイトボードに覚えたの「ト音記号」を書き始めて、それを見た坂本さんがそこに「ヘ音記号」を書き始めて、二人で勝負になったところ。坂本さんのいたずらっぽい表情がいいでしょう？

坂本さんは世界的な音楽家だし、スキのない知識人のイメージがあるけど、本当はいたずら好きの愛すべき人だった。ぼくはどうしてだかそうした坂本さんといっぱい会った。「ゆうさん地方公務員なのにドビュッシー知ってるの？」なんてことも言われたけど、笑って許せちゃう人だった。

坂本さんのお父さんが河出書房の名編集者で、戦後の文学者を数多く輩出させた人であることは知ってる人もいるだろう。それより坂本さん自身が博覧強記で、何かわからないことがあるとすぐ教えてくれる人だった。だから言葉の奥行きが一般人と違っていた。たとえば坂本さんが一般的に「日本人」という時、それは長い歴史で最長の日本人になる。それは一万年を超えるほどある「縄文期」に暮らしていた日本人のイメージだ。その期間、縄文期の日本では互いに殺し合うための武器は滅多になく、簡単な農耕と狩猟採集で十分に豊かに定住生活をしていた。それは青森の「三内丸山遺跡」などの研究により明らかになったことだ。ぼくは坂本さんから「三内丸山遺跡に行くといいよ」と言われていた。常に坂本さんからはいろいろなことを教えてもらっていた。

なんて素敵な人だろう。その坂本さんを失ったことが寂しい。「またメールすればいいや」と考えて連絡せ

ずにいたこともたくさんあった。『悪いしね、迷惑かけちゃ』と。

だけど永久に再び会うことができないなんて残酷すぎるじゃないか。たかだかぼくですらそう感じるのだから、家族や身近にいた人たちのことを考えると痛ましい。大丈夫なんだろうかと考えてしまう。

ぼくはふと思うんだ。音楽を作る時って、キャンパスに最初の色を描く時みたいに、最初の音の色を思うんだろうな。そうしてみると、坂本さんの音がわかり始める気がするんだ。とても難解な音もあるけど、あれを純白のキャンバス地に始めに乗せた音だと思うと、その感触が共感できる気がする。もともと誤解かも知れないよ、でも坂本さんの言うところによれば、「音楽のほとんどは誤解」なんだそうだから、仕方ないんじゃないかな。

誤解を少しでも少なくするために、「言葉」があるんだ。「言葉」はなるべく誤解されないように中心に焦点を当てて輪郭を描きながら、なるべくわかりやすくする。そうしないと「望んでもいない誤解」を勝手に押しつけちゃうかもしれないから。

戦争は嫌だし回避する努力を最大限するし、生命の存在そのものを脅かす「放射性物質」は、たとえエネルギーとして使えるとしても使うべきでない。それは周囲の誰にも届けたくない。

周囲の生命にとって役立つことがわかっている植物の作り出す酸素、食料となる生命、その元となっている微生物たちに始まるネットワーク。それだけで十分なんじゃないか。その生命のネットワークに頼れば、人間がわざわざ新しいものを足さなくてもいいんじゃないか。

ぼくは取るに足らない存在で、何かできるわけじゃない。でもそれはあの坂本さんですらいつも言っていたことだ。「ちっとも進まなくてもやめない、あきらめなくて声を上げ続ける」私たちにはそれしかない。

坂本さんをかいかぶり続けて、それで自らは何もできないからとあきらめてしまったらどんな社会になると思う？ 小さな一歩でいいから、それでもあきらめずに生き続けよう。